

社会福祉法人 十字の園

# ぶどうの木

(ヨハネ福音書 15章)

発行: (福)十字の園法人本部  
理事長 平井 章

住所: 〒431-1304  
静岡県浜松市北区細江町中川 7220-11  
tel 053-414-1400  
fax 053-420-2100



ガーデニングの様子

## 「施設の心の拠りどころ」

伊豆高原十字の園 施設長 小川秀幸

私どもの施設周辺が綺麗な草花で彩られているのはご存知でしょうか。それは入居者だけではなく、職員、来訪者の心を癒してくれます。建物完成当初は、雑木林とフェンスに囲まれ、多くの人から殺風景で寂しい印象だのご意見をいただきました。しかし、ボランティアを中心とした地域の皆様と職員の活動によって、今では季節ごとにいろいろな草花を愛でることができるようになりました。目につきにくいところでも多様な奉仕活動がありますが、そのような地域との繋がりが、これまでも、これからも施設の心の拠りどころだと思います。いずれは地域の皆様にとって伊豆高原十字の園が心の拠りどころとなるよう運営してまいります。

共生社会とは「互に人格と個性を尊重し支え合い、一人ひとりに居場所がある社会」

### 1. 「ともに」の居場所が十字の園

57年前、地域の中には要介護老人のための居場所が無かった時に、十字の園老人ホームが「ともに」生活する居場所となりました。生活の自立を目指して、低床式ベッド（病院型のベッドの足を切って低くし）、車椅子（木製椅子にキャスターを付け）、洋式トイレ（木製椅子の座面に穴を開け下にバケツを置く）などの環境を整え、ベッド体操やリハビリ訓練、音楽療法や刺しゅうなどの作業療法もありました。何もなかったから工夫して補助具が出来ました。

### 2. 自立への支援（排泄、着替え、食事）

伊豆高原十字の園では、30年前に排泄の随時交換、尿意のある人のオムツ外しを試み、日常動作訓練として着衣交換も生活訓練のうちと、できることは自分でをモットーに自立支援に取り組みました。食事では「自分で選ぶ」を大切に、複数献立のセルフランチ方式を取り入れ、介助食はその場で刻みなどに対応していました。三重苦（目・耳・口）の方は環境を整え、触るコミュニケーションによって、だれよりも自由で自立した生活をしていました。

### 3. 「我が事」として自立支援

我が家の次女は知的障がいがあり、最近麻痺によって身体的に不自由になってきました。できる限り家庭で暮らし続けるために「我が事」として、環境（段差解消スロープや手摺設置）を整え、道具（ジョーバフィットネス器、ルームマーチサイクル運動器、歩行不足用リラクスマッサージ器、介助用電動アシスト車椅子）を購入しました。自分で自分の思い通りにできないと人はイライラし、興奮し、自傷行為をします。施設での大声などはイライラが原因です。

### 4. 「ノーリフトポリシー」とは

オーストラリアでは1998年に腰痛予防対策として「押さない・引かない・持ち上げない・ねじらない・運ばない」という「ノーリフトポリシー」ができました。



御殿場十字の園で「抱え上げない（ノーリフト）介護」にチャレンジしました。腰痛のハイリスクの次の3点について改善を検討しました。①トイレ内移乗介助は「台座式床走行リフト」による介助、②ベッド⇄車椅子移動はスライドボードや肘跳ね上げ式車椅子の導入の介助、③浴槽の出入りにはスライドボードの導入やリフト設置の検討をしました。しかし、腰痛予防対策に一番大切なことは「職員の意識」でした。早速「H・Y・S（働きやすい・職場）委員会」を立ち上げ、職員の自主的発想や取り組みで改善に結びついています。

### 5. 職場定着支援助成金の活用

平成28年より「介護福祉機器等」にも労働局の助成の幅が広がり、介護労働者の身体的負担を軽減するために介護福祉機器の導入に対し助成されます。第2アドナイ館では、介護負担の大きい「入浴設備助成」の申請をしました。施設の浴槽（家庭用）に入浴介助リフター『湯友ちゃん』を取り付けました。コンパクトで扱いやすく、職員に好評です。一般家庭にもお奨めです。

### 6. 「我が事」・「丸ごと」として

私たちはこれまで、地域の「ために」、利用者の「ために」と福祉を担ってきましたが、これからは、地域と「ともに」、利用者と「ともに」と意識を変えて、「共生社会」の実現に関わっていきたいものです。

## 『インド聖隷希望の家』 デイルさん来園

浜松十字の園 総務課課長 金谷一作

9月より、インドにある聖隷希望の家からディール・ジョージ・ヴァルゲーゼさん(27)が来日し、十字の園を含む各聖隷グループの施設にて研修を行いました。

ディールさんの父親であるアブラハムさんは、1986年、社会福祉を学びに日本に来て、長谷川保・八重子達がキリスト教の信仰をベースとして、数々の社会活動に取組み実現したことを学びました。それからインドに戻った後、1991年に聖隷グループの協力を得て、障がい者を中心に、貧しくて学校に通えない子供達、仕事がないホームレスの人達等、政府の社会保障制度から漏れた人々を助ける為、ケララ州にインド聖隷希望の家 (India Asha Bhavan) を開設しました。



浜松十字の園会議室にて



ディールさん初めての味噌汁作り！  
(デイサービスみをつくし)

こうして、初期の聖隷のように、行政からの支援が見込めない中、生活に困窮する人々を支える仕事を始めたアブラハムさんは、今回、息子であるディールさんを自分と同じ様に日本で福祉を学ぶよう送り出しました。ディールさんは浜松にある十字の園の施設「アドナイ館」に滞在しながら、十字の園および聖隷グループの様々な施設を訪問し、日本の社会福祉の現場の様子を学び、12月に帰国する予定です。

十字の園での研修を終えたディールさんは、「これからインドでも介護が必要な高齢者の受け入れができる施設が必要になる。将来的には十字の園で学んだ経験を生かして、インド聖隷希望の家でも高齢者を対象とした支援に取り組んでいきたい」と話していました。

ディールさんの通訳をさせて頂いた事は、インド聖隷希望の家の紹介をすると同時に私も学ぶ機会となりました。聖隷の初期においても見られる、共に生きる人々を助ける隣人愛の精神にかける思い、キリスト者としての信仰を持って実行で示す、その姿から、大切なことを学ばせてもらいました。人々に希望の光を灯す仕事を、これからも共に続けて、歩んでいきたいと感じました。皆様も日々の祈りの中に覚えてくだされば幸いです。



直虎で有名な龍潭寺にも行きました

# 「十字の園大会報告」

伊豆高原十字の園 多田高穂

第22回十字の園大会は「地域と地域（施設）の融合」をテーマに行われました。全国的に地域で人と人との繋がりが希薄になり、国も総合事業という名のもと、改めて地域での繋がりを推進しています。私たちは今まで以上にそれぞれの地域に溶け込み、一体となって持っている力〔地域（施設）ごとの特性〕を全力で出し、「おたがいさま」の気持ちを具現化する地域（施設）を作っていくことが必要であります。この為、今回の十字の園大会では、職員間の連帯感・協力・調和・団結力などを改めて感じ・考えてもらえるよう、「法人内運動会」を催しました。

法人内運動会を開催することは、大会22回目（22年目）にして初めての試みです。今までに無い取り組みの為、大会準備は例年以上に頭を悩ませるものとなりました。

運動会では、4チームに分かれ、順送球、借り人競争、玉入れ、ウルトラクイズ、車椅子リレーが行われました。どの競技も大いに盛り上がり、どの職員もオリンピック選手にも劣らないくらいのやる気が見え、勝った時の笑い声や、負けてしまった時の悔しそうな声が飛び交いました。普段あまり関わりのない同じ法人の職員が施設間を越えて一つになり、今回の十字の園大会のテーマである「地域と地域（施設）の融合」に繋がったのではないかと思います。単純に運動会（レクリエーション）ということではなく、県内各地に点在している十字の園が、同じ法人の職員として一つになり（融合）、価値観を共有できたことは、これから起こる2025年問題や法改正などを乗り越え、次代に繋げていける、と確信を持つことができる大会となりました。



順送球



借り人競争



玉入れ



ウルトラクイズ



車椅子リレー



赤チーム



青チーム



**黄色チーム**



**緑チーム**

結果は青チームが優勝しました。チーム内の団結がとても良くみられ、その中でも率先してチームを引っ張り、優勝に貢献された永原克世さん（平和の杜：お台所）がMVPに選ばれました。



二日目には、NPO法人ホッとスペース中原 代表 佐々木炎氏の「人は“命”だけでは生きられない」という講演を聞きました。福祉を实践するに当たり、多種多様な全ての人々が、社会から疎外されることなく、人間として生きることが承認され、対等な立場でお互いを尊重し、支えあって共に生きていく社会が必要であり、それは神の国であり、隣人愛が求められ、キリスト教主義で福祉を行う十字の園が必要とされているということでした。

周りの職員同士の繋がりを大事にし、自分の生きる支えに気づくことにより、些細なことでも感謝できるようになり、今回のテーマである「融合」、「おたがいさま」の気持ちの具現化に繋がっていくのではないかと思います。



平井理事長の総評で、運動会は大成功と言って頂きました。話の中で、「専門職集団の福祉事業は、いつしか職員と職員が、職員と利用者が、施設と地域が『人』として離れてしまっている気がします。福祉は『とけあって一つになる=融合』が大切なのです。そこで築かれた関係性から専門職として力が発揮できるのです」と語られていました。

### 第22回十字の園大会プログラム

10月19日(木)大会1日目	
11:30	開会礼拝
13:40	運動会
16:00	記念撮影
18:00	夕食懇親会・表彰式

10月20日(金)大会2日目	
9:25	講演
11:05	総評
11:15	閉会礼拝

## 【里芋が好き2017～芋煮会～】 伊東市立養護老人ホーム平和の杜 佐久間光一



いつも食堂で頂く食事は美味しいけれども、自分達で作ると美味しくて、もっと楽しい。

10月某日、台風の影響で雨が降り続いたこの日、平和の杜では『芋煮会』が行われました。あいにくの天気のため、外で大鍋を囲む事はできません。芋煮会は外でやってこそとも思いますが、入居者の皆さんにとっては芋煮会さえ行われれば関係なし。美味しく、楽しく食べられれば万事OKなのです。

そしてもう一つ、芋煮会の楽しみは食べることだけではなく、自分達で調理を行えるところにあります。材料の下拵えは、入居者の出番。

「包丁持つのは何年ぶりかしら」「包丁ないの?」「切れ味が悪いわね」再び輝く、往年の経験(包丁さばきとか)と技術(つまみ食いとか)。下拵えはあっという間に完了です。

仕上げの作業と他の献立は職員にお願いし、そわそわしながら皆で鍋の出来具合を見守ります。そして、出来上がり。「いただきます」五臓六腑に沁み渡る芋煮の味わいと温かさ。それを自分たちが手掛けた喜び。至福の時間はあっという間に過ぎていき「ごちそうさま」。外は相変わらずの雨ですが、平和の杜の芋煮会は大成功。また来年も行いましょう。



## 【癒し♪空間】

松崎十字の園 デイサービス 吉田 勇

全国の里を満たすプロジェクト「FULL-SATO -松崎町と歌を育てる-」の一環として、10月9日に常葉大学造形学部教員と文化芸術アンシエイツであるソプラノ歌手の曾根妙子氏と作曲家の相澤洋正氏が松崎十字の園に訪れ、慰問コンサートを行って下さいました。

始めに「あなたのふるさと」を唄われ、さすがオペラ歌手だと思わせる美しい伸びのある歌声に利用者様も思わず、2番が始まる前に拍手されていました。2曲目は「大切なものほど目の前にある」です。普段は気が付かずに見過ごしてしまうような幸せが歌詞にちりばめてあり、フロアの皆様に一体感がうまれました。3曲目は「シャボン玉」でした。誰もが幼い頃に経験したシャボン玉遊びに思いを馳せるプロジェクションマッピングとのコラボレーションで、異空間にいざなわれ時空を超えた不思議な雰囲気になりました。そして4曲目は「ふるさと」です。ピアノの生演奏をバックに全員で歌い、それぞれのふるさとに思いめぐらせながらしっかりと歌うことができました。予定ではここまででしたが、アンコールの大合唱が利用者様から沸き起こると、笑顔で応じ「アメイジング・グレイス」を披露してくれました。透き通った美声が胸の中に浸透し皆さん感動されていました。



今回のこのコンサートに利用者様が生き生きとした瞳を見せて下さったことが一番印象に残りました。12月9日には松崎町石部棚田のライトアップ開始日に伊豆の長八美術館を再び訪れ、「松崎町の歌」をプロジェクションマッピングに合わせて行う予定だそうですので、是非皆様にも足を運んで頂ければ幸いです。

## 【秋まつり】

伊豆高原十字の園 水口琢也



10月27日、伊豆高原十字の園では、秋まつりが開催されました。

大型で強い台風21号や、連日降り続いた雨の影響もなく、職員の願いが届いたのか当日は、爽やかな秋晴れとなりました。

入居者、ボランティア、職員、当日来られた御家族を対象に、ラーメン、炊き込みご飯、フライドポテト、芋煮鍋が振る舞わ

れました。また、外部販売として、クープの利用者により、焼き芋が販売されました。

入居者の方々も青空の下、そして賑やかな雰囲気の中で食事を楽しまれており、少し肌寒さを感じるこの季節には、外で食べる温かい料理が格別においしく感じられたようです。

伊豆高原十字の園が新施設となってからは、初めての秋まつりでしたが、入居者の皆様、参加された方々に喜んで頂けた素敵な行事となりました。



## 【共に生きる。】

地域活動支援センターくろっちょ 湯山真子

はじめは、ある日の送迎車の中。くろっちょを利用される方との何気ない会話からでした。「もうすぐ誕生日ですね。何かやってみたい事がありますか？」との問いかけに、「習字がやってみたい。でも一度もやった事ないの。手も上手に使えるか分からないし。」

くろっちょでは定期的に書道教室が催されます。それを見ていて「私も墨で、筆を使って半紙に文字を書いてみたい。」と思いが募ったのでしょうか。スタッフと話し合い、そしてご本人と相談しました。「口を使えば自分の力で字が書けるかもしれない。やってみましょう。」と。

初めての筆は思うように動いてくれませんでした。文字の一画一画を書く事すら難しいということが私達にも手に取るように伝わりました。それでも何度も何度も繰り返し、半紙の上に思いの丈を書き上げる事が出来ました。傍らで一緒に習字をしていた方々も共に涙して喜び合いました。大きく力いっぱい書かれた一文字『生』。今まで生きてきた人生の証が此处にありました。

生きる喜びを創りあげる瞬間に立ち会うことが出来た事は、私達にとっても忘れられないものとなりました。これからも『やってみたい』を形にし、『できた』の喜びを皆と共に分かち合うことが出来るようにしていきたいと思います。

あらためましてお誕生日おめでとうございます！



内部監査は、2012年に内部監査規程を定め、2014年度から法人の内部監査部門が担当して毎年実施しています。規程第1条に「経営の合理化・効率化および業務の適正な遂行を図ることを目的とする」と記され、元気が出る監査を目指しています。今年度の監査項目は、業務監査14項目①ガバナンス、②コンプライアンス、③資格の確認、④定員の遵守、⑤平等な受入れ、⑥設備基準の遵守、⑦消防法の遵守、⑧身体拘束の禁止、⑨虐待の防止と通報、⑩交通法規の遵守、⑪法人財産の尊重、⑫公正な経費処理、⑬記録・マニュアル類の整理、⑭労務管理。会計監査8項目①前年度の内部監査結果、②日常処理、③月次処理、④インターネットバンキング、⑤稟議書、⑥情報公開、⑦会計の記録、⑧購入～支払でした。8月2～3日に、浜松十字の園、アドナイ館、第2アドナイ館。9月27～29日に、松崎十字の園、伊豆高原十字の園、平和の杜、御殿場十字の園の業務監査を実施しました。会計監査は、アドナイ館、第2アドナイ館、松崎十字の園を実施しました。内部監査の役割として、課題を共有し共に検討することも重要です。理念の具現化された経営。身体拘束、虐待、苦情等の対応。ノー残業デイ、6S、有給休暇の取得。適切な会計処理。又、地域課題とどう向き合っているのか。毎年、各施設が地域に信頼される健全な経営がおこなえるように、元気が出る監査を実施していきます。

2017  
平成29年度

## 永年勤続者表彰名簿 (42名)

おめでとうございます。これからもう  
元気で良い働きができますように！

勤続年数	氏名	施設名	就職年月日	勤続年数	氏名	施設名	就職年月日
35年	鈴木啓之	伊東市養護老人ホーム	昭和57年4月1日	15年	杉崎由宗	御殿場十字の園	平成14年4月1日
25年	河出雅代	浜松十字の園	平成2年5月1日	15年	武藤繁生	御殿場十字の園	平成14年4月1日
25年	谷田貝泰子	御殿場十字の園	平成3年5月1日	15年	松崎和博	伊豆高原十字の園	平成13年7月1日
25年	大谷光宏	第2アドナイ館	平成4年3月4日	15年	斉藤佐智子	伊豆高原十字の園	平成13年12月17日
25年	澤田美恵子	御殿場十字の園	平成4年4月1日	15年	川尻寿	伊東市養護老人ホーム	平成14年4月1日
25年	山田厚子	伊豆高原十字の園	平成4年4月1日	15年	阿部美代子	伊東市養護老人ホーム	平成14年4月1日
20年	近藤礼子	伊東市養護老人ホーム	平成9年4月1日	10年	鈴木清香	浜松十字の園	平成19年4月1日
15年	加藤義孝	浜松十字の園	平成13年5月1日	10年	鶴見俊輔	浜松十字の園	平成18年10月16日
15年	古橋美恵子	浜松十字の園	平成13年12月1日	10年	内山律子	浜松十字の園	平成18年10月20日
15年	栗田望	浜松十字の園	平成14年4月1日	10年	湊満子	浜松十字の園	平成19年4月1日
15年	豊田真由美	浜松十字の園	平成14年4月1日	10年	渡辺章	浜松十字の園	平成19年4月1日
15年	山本貴一	松崎十字の園	平成13年9月1日	10年	長田玲子	御殿場十字の園	平成19年4月1日
15年	島倉とよみ	松崎十字の園	平成14年4月1日	10年	猪越貴史	御殿場十字の園	平成19年4月1日
15年	鈴木清彦	松崎十字の園	平成14年4月1日	10年	中川玲花	御殿場十字の園	平成9年4月1日
15年	石田良	松崎十字の園	平成14年4月1日	10年	磯崎亮	伊豆高原十字の園	平成18年5月1日
15年	関弘美	松崎十字の園	平成14年4月1日	10年	岩本佑太	伊豆高原十字の園	平成18年7月25日
15年	平川誠美	松崎十字の園	平成14年4月1日	10年	青木恵美子	伊豆高原十字の園	平成18年8月23日
15年	藤井昭一	松崎十字の園	平成14年4月1日	10年	齋藤紀子	伊豆高原十字の園	平成19年2月1日
15年	佐藤信子	松崎十字の園	平成14年4月1日	10年	桑子一善	松崎十字の園	平成18年12月1日
15年	松本耕	御殿場十字の園	平成13年6月1日	10年	佐藤佳那子	松崎十字の園	平成19年1月1日
15年	千田晶子	御殿場十字の園	平成14年4月1日	10年	柳川幸	法人本部	平成19年4月1日

**あ**  
**と**  
**が**  
**き**

そろそろお正月の準備にと、餅つきを予定される方も多いのではないのでしょうか。

もともとは、お米が採れたことを、神(先祖)に感謝し、来年も豊作であることを願うためだと言われています。お餅は神様とのつながりを示していて、神事に用いられてきたのですが、社会的な意味合いも持っていたそうです。地域で行う餅つき大会は、ご近所同士で同じものを食べるという、地域社会をつなぐ重要な役割も持っています。施設でもそういった光景が見られるようになるとうれしいですね。

伊豆高原 富岡良太

熊本地震及び東日本大震災復興支援募金にご協力を！

皆様の温かいご支援を  
お待ちしております!!

〒431-1304

静岡県浜松市北区細江町中川 7220-11

社会福祉法人 十字の園

理事長 平井章

振込口座 静岡銀行細江支店 普通 0015345

(掲載されています写真については、ご本人またはご家族の承諾を頂いています。)